

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりが、確かな学力と豊かな人間性を備え、高い志をもって、伸び伸びと主体的に高校生活を送ることのできる学校をめざします。

- 1 学業を第一として捉え、知識や技能の習得とともに、考える力、学ぶ意欲を育みます。
- 2 他者と協働する様々な活動を通して、主体性、協調性、自律性、社会に貢献する力を育みます。
- 3 自らの意思で行動し、夢の実現に向かって努力を継続する力を育みます。

2 中期的目標

1 学力向上と進路実現

(1) 教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。

- ア 学習に向かう意識を向上させるとともに、授業見学、校内研修、授業アンケート等により継続的な授業改善を図り、生徒の学力向上に結びつける。
- イ 「魅力的な授業・わかる授業」を確実なものとし、さらに一歩進んで「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

(2) 自学自習する力を育む。

- ア 家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。
- イ 読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。

(3) 進路指導の充実に取り組む。

- ア 3年間を見通した系統的・継続的な進路指導を実践し、多様な進路希望に丁寧に対応する。
- イ 模擬試験や学びの基礎診断等を活用し、生徒の学力等の推移を把握して、時機を捉えた進路指導を行う。

※ 授業満足度 R4年度には85%以上を維持 (H29 88%、H30 86%、R1 88%)
 授業以外の学習1時間以上 R4年度には60%をめざす (H29 27%、H30 40%、R1 30%)
 進路指導に対する肯定率 R4年度には85%以上を維持 (H29 87%、H30 85%、R1 88%)

2 豊かな人間性の涵養

(1) 学校・地域において他者と協働する様々な活動を通じて人間性を育む。

- ア 体育祭、文化祭等の学校行事や部活動を通して、生徒に考え、行動させながら、主体性、協調性、自律性を育む。
- イ 地域の奉仕活動・交流活動、その他様々な発表の場面に積極的に参加させ、社会に貢献する力や自己肯定感を育む。

(2) 学校生活における規律を身に付けさせる。

- ア 全校的で効果的な生活指導・遅刻指導を行い、時間・規則を守る意識を育む。
- イ 保護者の協力を得ながら交通安全指導を行う。
- ウ 清掃指導を徹底し、環境美化に務めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。

※ 部活動加入率 R4年度には75%をめざす (H29 65%、H30 65%、R1 60%)
 遅刻者数 R4年度には1000人をめざす (H29 1660人、H30 1285人、R1 1170人)

3 活力ある学校づくり

(1) 専門コース等の教育内容を一層充実させる。

- ア 国際交流の推進により、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際的な視野を育む。
- イ 英語専門コースでは、英語力を鍛え、英語を専門的に研究・活用する学部・学科への進学の実現をめざす。
- ウ 理数専門コースでは、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせるとともに、理系学部・学科への進学の実現をめざす。

(2) 新たな教育課題に対して全校的に取り組む。

- ア 新しい学習指導要領及び大学入学者選抜等の実施に関して、教科や分掌の垣根を越えて学校として取組みを進めていく。
- イ 業務の統合や会議の効率化などを図り、教職員の働き方改革を進めていく。

(3) 学校の教育活動の積極的な情報発信を行う。

- ア 学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の広報を充実させる。
- イ Web ページ、阜メール等により、学校情報を積極的に伝える。
- ウ 危機管理体制を充実させる。 ※ 学校説明会理解度 R4年度には90%以上を維持 (H29 90%、H30 98%、R1 99%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分] ※()内は昨年データ	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員「学習指導方法の工夫・改善」88.6% (82%) と授業改善が計られた。「講習・補習の実施」は、休暇(夏・冬)の期間短縮に伴い、74.3% (91%) と減少したが、模試振返・単語確認等の Web コンテンツを作成する等の取組をした。 今後、自学自習を深めるコンテンツの充実と下記生徒の学習時間の充実を図る。 ・生徒「授業以外の勉強時間1時間以上」28.9% (30%)、保護者「家庭でよく学習している」40.2% (43%)であり、家庭学習の定着が依然として課題である。 <p>【進路指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導への肯定的回答は、生徒88.6% (88%)、保護者77.1% (77%)、教員69.4% (78%) と生徒・保護者からは例年同様に高い評価を得た。コロナ不況や生徒の安全志向が教員の評価を下げる要因になったものと考えられる。引き続き、生徒の多様な進路希望に対して親身な指導に努めたい。 <p>【学校生活】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒「学校行事の工夫」81.1% (76%)、「自治会活動への参加」74.7% (67%) コロナ禍で活動自粛が求められる中、3密を避ける工夫等の対処を講じ実施できたことが評価をあげる要因と考察する。引き続き、自主性を育む取組に努めたい。 <p>【保護者対応】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者「相談への適切な対応」87.4% (86%)、「本校の教育は全般的に満足」81.2% (84%) と例年同様に高い。今後も、家庭との連携を密に、丁寧な対応に努める。 	<p>第1回 (9/23)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危機管理体制の充実の為、感染者や濃厚接触者が出た場合の対応策をシミュレーションしておく必要がある。 ・自学自習を促すためには、教職員・保護者が一体となり、具体的な施策として取り組まれることが強く望まれる。 ・オンライン授業や対面授業、また、両者を融合したハイブリッド型授業等を柔軟に実施することができるリソースの強化が必要 <p>第2回 (12/15)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、情報発信の重要性が求められる中、画像も多数使用し、分かりやすく、かつ、適宜更新されている。また、昨年指摘したパンフレットは刷新され、先生方が知恵を絞って作成された感が伺われます。 ・工夫しながら各種行事を実施し、生徒の活躍の場や成長の場を確保されている。 ・授業満足度が80ポイント台を維持することができていることは評価に値する。授業改善への取組が、昨年を上回る授業見学回数として現れている。 <p>第3回 (2/2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校経営計画に阜らしさが欲しい →専門コース・選択科目等によりきめ細かく進路対応できる普通の普通科。進路未決定者が年々減少してる状況は、取りこぼさず、きめ細かな進路指導を実践している証。 ・阜らしさについては、教員間で共有されていないように感じる。まず、教員間で掘り下げていきながら、具現化してはどうか。 ・(昨年度の協議会で指摘され)刷新されたパンフレットは、高校生活をイラスト的にイメージ化されており評価している。 ・学校教育自己診断の分析で関連データはよくできている。教員間で共有し、話し合いの題材にしてはどうか。また、生徒へ開示し、生徒にも考えさせてはどうか。 ・家庭学習の少なさが課題である。家庭学習定着は、教員個々の取組に任せるのではなく、生徒に学習目標をしっかりと持たせ、何をどのように取り組ませるのかの解析が必要。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上と進路実現	(1) 教科指導の充実 ア 継続的な授業改善 イ「主体的・対話的で深い学び」の実現	ア・授業力向上委員会が目標等を設定する。 ・日常的に授業見学を行い、助言を積み重ねることにより、相互の授業改善に繋げる。 イ・校内研修授業及び研究協議、情報交換等により、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業を行う。	ア・授業満足度 85%以上維持 (R1 88%) ・授業見学 2.5回/人 (R1 2.7回/人) イ・自己評価「学習形態等の工夫を行った」85%(R1 82%)	ア・授業満足度(生徒による授業アンケート)(◎) 86.7%(前期)、86.5%(後期)、年間通じて86.6%とりわけ、板書・教材提示および思考・表現の取組時間確保の肯定評価が微増し、授業改善が見られた。 ・授業見学回数 3.26回/人 コロナ休校期間に初任者および新転任者等模擬授業及び相互授業見学を実施したことによる回数増 イ「学習形態等の工夫を行った」85.3%(○) 授業見学の回数増や学習環境の整備により授業の効率化や教材提示等の改善が図られた。
	(2) 自学自習する力の育成 ア 学習に向かう意識の向上 イ 基礎・基本の学び直しの場づくり ウ 読書活動の推進 エ 資格取得の奨励	ア・適切に宿題・課題を出し、実行させることにより、家庭学習を習慣付ける。 ・充実した講習・補習を設け、積極的な参加を促し、目標達成に向けて努力させる。 イ・図書室内に自習スペースを整備し、自学自習できる環境を充実させる。 ウ・授業での活用や図書委員会の活動により、図書館に対する親近感を向上させる。 エ・各種の検定の積極的な受験を促し、授業や講習を通して合格のための力を付ける。	ア・授業以外の学習1時間以上の生徒40%(R1 30%) ・講習・補習の延参加者3000人以上(R1 4552人) イ・自習スペースの活用状況 ウ・図書館利用率30%以上 (R1 24%) エ・英検受験者数 80人以上維持 (R1 80人)	ア 授業以外の学習1時間以上 (△) 28.9% 講習・補習の延参加者 1280人 (△) (補習1088人・講習192人) コロナ休校あけの6月中旬一斉授業再開後、進学講習等を随時実施したが、授業日確保の為例年より夏期・冬期休暇が例年より短く、その時期の集中講習は実施できなかった。 一方、模擬テスト・実力テストの模範解説をオンラインで示す新たな取組を進め、積極的に取り組む生徒の一面を見ることができた。 イ 通常時は、20%、考査直前は、50%使用状況(△) HR教室等の利用者も一定数おり、運用方法については、今後の課題 ウ 図書館利用率 29% (○) コロナ休校のため例年より期間が短かったにも係らず、利用率は昨年より増加した。新書等、生徒の興味・関心の高い蔵書を設置等、更なる充実を図る エ 英語検定受験者数 97名 (○) (第1回41名、第2回52名受験) 合格者 前期 準2級 8名 3級7名 後期 2級 1名 準2級 9名 3級2名 年間 2級 1名 準2級 17名 3級9名 ※ 別途、1年生(全員)はGTECを実施し、リスニングテスト(授業実施)等、4技能の育成を図る。
	(3) 進路指導の充実 ア 3年間を見通した進路指導 イ 模擬試験や学力生活実態調査の活用	ア・1年次「職業理解」2年次「上級学校理解」3年次「進路実現」の目標に沿って、進路HRを中心に継続的な進路指導を行う。 イ・模擬試験の実施前にガイダンス、実施後に分析会を行い、指導に生かす。	ア・進路指導に対する肯定率85%以上を維持 (R1 88%) イ・模擬試験の実施前にガイダンス、実施後に分析会を行い、指導に生かす。	ア 進路指導に関する肯定率 88.6% (◎) 「探究の時間」と「コース別進路説明会」を組み合わせた。2年生はコロナの影響でオープンキャンパスに参加できなかった。 イ 2年生(103名受験)に対して事前指導及び振り返り(分析会)の実施[12月]。 あわせて、一部の科目は、復習用の解説動画を作成し、オンライン配信した。
2 豊かな人間性の涵養	(1) 協働的活動を通じた人間性の育み ア 体育祭や文化祭等の学校行事の充実 イ 部活動の活性化 ウ 地域貢献	ア・体育祭や文化祭、HR活動を通して、リーダーを中心に生徒に考え行動させることにより、生徒の主体性を育む。 イ・新入生への入部の勧誘に一層取り組む。 ・3年間部活動を継続できるよう、充実した指導や丁寧な対応で生徒をサポートする。 ・部員による校内あいさつ運動を奨励し、学校の活性化に繋げる。 ウ・地域の奉仕活動及び交流活動(地域清掃、SGS(スクールガードホルター)、中学生との部活動交流、地域活動への出場等)により、社会に貢献する力を育む。	ア・体育祭満足度90%以上 (R1 82.7%) 文化祭満足度85%以上 (R1 88%) イ・部活動加入率65% (R1 60%) ・校内あいさつ運動への参加延部活数60以上 (R1 65) ウ・地域の奉仕活動や交流活動への参加者数800人以上 (R1 810人)	ア. 体育祭満足度は、87.3%(R1は82.7%)(○) コロナ禍で種目・運用方法も感染防止対策を講じる等の制限がある中、生徒が主体的に応援や競技を楽しむ工夫を凝ら姿が見られた。 文化祭満足度は、65%(R1は、88%)(一) コロナ禍により展示・映像部門に限定(ステージ・バザー部門は、感染防止の為、禁止と)した。また、鑑賞時に特定の会場が密になることを避けるため、学年別に分散登校し、各クラス・文化系クラブの作品等生徒達の創意工夫が見られた。 イ. 部活動 12月段階 65.5% (○) 校内あいさつ運動 延べ68部(剣道部が復活) ウ. 地域清掃、SGS、ビデオレターによる寝屋川支援学校との交流を図る等、 延べ349人(R2.12現在) コロナ感染防止の為、学校見学時の部活体験は実施したが、中学生との部活動交流は実施できなかった。 (一)

	<p>(2) 学校生活における規律の確立 ア 遅刻指導の取組み イ 保護者と連携した交通安全指導 ウ 清掃指導の徹底</p>	<p>ア・生徒の規範意識の醸成に努め、落ち着いた校内環境を維持する。 ・遅刻防止週間の設定、毎朝の校門指導等、全校体制で遅刻指導に取り組む。</p> <p>イ・保護者と連携した交通安全指導及び意見交換会を開催し、自転車通学における安全確保と交通マナーの改善へ繋げていく。</p> <p>ウ・毎日の掃除を徹底し、学習環境を整える。</p>	<p>ア・遅刻者数 前年度 10%減少 (R1 1170人)</p> <p>イ・交通安全指導及び意見交換会を年3回実施し、保護者に情報を提示する機会を設ける。(R1 3回)</p> <p>ウ・教員の肯定的評価 50% (R1 38%)</p>	<p>ア. 1465人 (×) ・毎月、生徒指導週間を設け、服装・頭髪指導等、登校指導を行った。 ・毎朝、登校時挨拶運動(声掛け)を実施。 ・学習活動・友人関係等の不安が体調に現れ、定時に登校できない生徒が一定数生じた。生徒相談委員会等において、生徒状況を確認し、個別指導により、生活リズムの改善、学習取組等、改善の兆しが見られた。次年度当初のクラス替え等、環境変化に順応できるよう生徒を支援し、引続き、規律ある学校生活習慣の定着を図る。</p> <p>イ. コロナ感染拡大防止に伴う休校期間があり、1学期は実施できなかった。11/14(土)及び 1/12(火)の2日間実施し、のべ14名の保護者協力を得た。(○)</p> <p>ウ. 学校の危機管理および衛生管理を踏まえ、教室内の環境整備について教職員への啓発を促した。校舎の老朽化もあり、学校教育自己診断において校内清掃に関する教員の肯定的評価の割合は38.9%と改善されていない。(△)</p>
<p>3 活 力 あ る 学 校 つ く り</p>	<p>(1) 専門コース等の教育内容の充実 ア 国際交流の推進 イ 英語コースの充実 ウ 理数コースの充実</p>	<p>ア・海外から留学中の大学生等の授業参加</p> <p>イ・英語4技能を一層伸ばす指導 ・英語検定対策</p> <p>ウ・生徒の習熟度を踏まえた課題、講習の充実 ・実験を通じた科学的探究能力・プレゼン力の育成</p>	<p>ア・留学生等を1人以上招く (R1 2人)</p> <p>イ・英検合格 2級 2人以上 準2級 4人以上</p> <p>ウ・学校説明会での模擬授業で生徒が中学生を指導する。</p>	<p>ア. コロナ禍で留学生を迎えることはできなかった。海外との交流先を模索し、11/24 にオーストラリアのセントラリアン シニア カレッジの生徒とオンライン交流を実施。(△)</p> <p>イ. 第1回は、41名受験 第2回は、52名受験 (○) 合格者は、2級1名/29名、<u>準2級17名/50名</u> 3級9名/14名</p> <p>ウ. 学校説明会の模擬授業(生物)では、本校生徒(理数コース及び生物演習選択(2名))による実験の仕方(機器取扱、留意事項等)を説明し、理科実験を体験させることができた。(○) また、3学期には、理数アドバンス生徒による学習発表を実施した。</p>
	<p>(2) 新しい教育課題への取組み ア 新学習指導要領や大学入学者選抜への対応 イ 働き方改革</p>	<p>ア・新学習指導要領の研究と本校の教育課程の編成について、教務部長を中心として検討し、完成させる。 ・新しい大学入学者選抜への対応について、進路指導部長を中心として準備を進める。</p> <p>イ・掲示板の活用により、職員会議での報告に要する時間の短縮を図る。</p>	<p>ア・教育課程検討の進捗状況(指導要領の研究、教育課程の完成など) ・大学入試対策の進捗状況</p> <p>イ・掲示板活用数 50件以上 (R1 44件)</p>	<p>ア. 生徒の興味・関心や進路に応じた科目(学校設定科目)等、教育課程を策定した。 観点別学習評価導入にむけ、近隣中学校へ授業見学(観点別学習評価の現状をヒアリング)(◎) ⇒ 教育課程協議会(オンライン教材)を視聴し、上記内容の校内伝達研修を実施し、教員の指導の在り方についての意識改革を促す。</p> <p>イ. 掲示板活用数 160件 (◎)</p>
	<p>(3) 教育活動の積極的な情報発信 ア 広報の充実 イ Web ページ等による情報発信 ウ 危機管理</p>	<p>ア・学校パンフレットの改訂等を行い、学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の充実を図る。</p> <p>イ・Web ページ、携帯連絡網等により、学校の情報保護者や地域に積極的に発信する。</p> <p>ウ 危機管理体制の再構築と、教職員及び生徒等の緊急連絡体制の充実を図る。</p>	<p>ア・学校説明会 理解度 90%以上を維持 (R1 99%)</p> <p>イ・Web ページ更新 200回以上を維持 (R1 202回)</p> <p>ウ・緊急連絡体制の整備状況</p>	<p>ア. 第1回学校説明会 11/14(土)実施 中学生 340名 保護者等 100名 計 440名参加 参加者による理解度 99.3% (◎) コロナ禍にあり、中学校訪問は中止。電話による状況の確認、学校案内等資料送付にて代替とした。</p> <p>第2回学校説明会 12/19(土) 実施 中学生 140名 保護者 44名 計 284名参加 体育館で一斉に説明した後、部活体験等グループに分かれ校内施設の見学及び部活動を体験。</p> <p>イ. 及びウ. (◎) Web ページ更新 125件 (内訳: 記事 86件・阜ブログ 16件・校長ブログ 23件) 阜メール 118件 部活動・中学生との交流等も制限され、Web ページの更新は減少。 生徒・保護者への緊急連絡体制を確立。 (全生徒・保護者が阜メールに登録) 緊急連絡等、阜メールによる情報発信は、昨年度より増加した。</p> <p>休日の学校への連絡窓口(コロナ関連の緊急連絡を含)として学校代表窓口を設置し、各種連絡を受付。 校外より確認し、必要に応じグループメールにて教職員(運営委員会の教職員)で情報を共有し、初動に当たる体制を構築。</p>